

ホップ♪ ステップ♪ のとがわ

能登川地区まちづくり協議会



猪子山森林再生の事前竹伐採作業

7月10日(日) 能登川南小学校の「猪子山森林再生プロジェクト」のための事前竹伐採作業
主催：猪子町自治会・能登川地区まちづくり協議会



第7回 親子でドラゴンカヌーを楽しもう

7月17日(日)

場所：能登川水車とカヌーランド

主催：東近江市子ども会連合会

能登川地区子ども会指導者連絡協議会



びわ湖清掃 7月1日(金) びわ湖の日

能登川漁港では、嘉田知事や県のふるさと観光大使の西川貴教さん(ミュージシャン)も加わって清掃活動が行われました。



「ふれあいナイト 2011」がんばろう日本！

8月20日(土)

24時間チャリティやビンゴゲーム、東北物産展などみなさまのご協力のおかげで賑やかに開催することができました。

会場：猪子山公園周辺

主催：東近江市商工会能登川支部

「ふれあいナイト 2011」実行委員会



あおぞらクラブで流しそうめん

8月18日(木)

場所：能登川南の学童保育所あおぞらクラブ
今年も暑い夏でしたが、流しそうめんて涼しく
楽しく昼食を食べることができました。

NO. 27

発行：能登川地区まちづくり協議会 発行日：平成 23 年 9 月 20 日
〒521-1292 東近江市駄光寺町262番地 東近江市能登川支所内
IP 電話 0505-802-2793 (平日午前中) FAX：0505-802-2793
E-mail：notomatikyo@e-omi.ne.jp
<http://members.e-omi.ne.jp/notomatikyo/>

猪子山 森林再生プロジェクト

平成19年から始まった、能登川南小学校の「猪子山森林再生プロジェクト」は、今年で5年目となりました。

8月8日には能登川南小学校5・6年生の児童約180人と、八日市南高校緑地デザイン科の生徒、能登川地区まちづくり協議会のメンバーと一緒に、今までに植樹した場所の草刈と竹垣づくりの練習をしました。



パソコンボランティア養成講座 受講生の募集

「パソコンボランティア能登川 和（やわらぎ）ねっと！」では、東近江市を中心に現在会員63名、受講生約95名で活動しています。今後、活動範囲の拡大を図り、より多くの障がい者、高齢者の人に生きがいのある生活の支援をしたいと考えていますので、多くのかたの参加を募集します。



受講風景

■日 時：10月の1日・8日・15日・22日・29日

（毎週土曜日：5回講座）14:00～15:30

■場 所：東近江市勤労者会館（能登川支所東側）他

■内 容：メールができる程度の講座

■参加費：無 料

■申し込み・お問い合わせ先：

東近江市社会福祉協議会能登川支所

ボランティア担当 田中まで（IP 0505-802-2989）

和（やわらぎ）ねっと！

会長 脇 眞澄（TEL 0748-45-0077）

第19回 能登川ふれあいフェア

■日時：10月23日（日）9:30～15:00
小雨決行

■場所：ふれあい運動公園（愛知川河川敷
栗見橋付近）

■内容：模擬店、リサイクルフリーマーケット
ステージイベント
仮面ライダー フォーゼ ショー

リサイクルフリーマーケット出店者募集中

■募集期間：9月30日（金）まで

■出店料：1区画 2,000円

■お問い合わせ先：

能登川コミュニティセンター（旧能登川公民館）
TEL 0748-42-3200 IP 0505-801-3200

第16回 無垢な魅力能登川を歩くハイキング

11/3
小雨決行

水と緑の潤いを感じて、
ゆっくり・のんびり田舎を満喫！

■コース：JR 能登川駅→八幡橋→愛知川河畔→葉枝見橋
→光照寺→乙女橋→能登川水車とカヌーランド→大浜
神社→伊庭御殿跡→JR 能登川駅 ■歩程：約10km

■受付・集合場所：JR 能登川駅改札口前
（受付 9:00～ 集合 9:30）

■参加費：500円（ハイキングに参加ご希望の方は、
事前に申し込みが必要です。）

■昼食に炊き込みご飯（350円）をご希望のかたは、
参加予約時にお申し込みください。

■昼食時、手作り芋ケーキとコーヒーをサービス。

■詳しくは、自治会回覧をご覧いただくか、または、東近
江市商工会能登川支部にお問い合わせください。

■主催：東近江市商工会能登川支部女性部いきいき事業研究会
TEL 0748-42-1158 IP 0505-802-2559
FAX 0748-42-6335（平日 9:00～17:00）



きぬがさ水田アート

きぬがさ城東自治会

田園アートは、古代米の葉色の違いを利用して作っており、歩道から見ても形が美しく見えるように工夫しています。

来年も作る計画をしていますので、お楽しみに！



アートは「ウサギとキヌガサ」



自治会 ウォッチング



東北大震災の復興と集落の活動に“光”があたりますようにと“光”の文字を描きました



■撮影：8月6日(土)

歴史点描 ⑧

市史編纂室だより

9月の稲刈り

地域や天候によって異なりますが、この時期、あちこちの田んぼで稲を刈る風景が見られます。

旧暦では9月のことを「長月」と呼びますが、その語源は夜がだんだん長くなる「夜長月」の略とされています。しかしこれ以外にも、稲が熟す「稲熟月《いなあがりつき》」や、稲を刈り取る「稲刈月《いなかりつき》」が略されて「ながつき」になったという説もあります。

また、9月の異称を「小田刈月《おだかりつき》」と言い、この時期が稲の収穫期であることが分かります。ただ、これらの呼称は旧暦で使われたもので、現在の暦に直すと10月上旬から11月上旬にあたります。

現在のように9月に稲刈りがおこなわれるようになったのは、稲の品種改良が進んだ昭和40年代以降と言われています。



老いと向き合って生きる

第1話

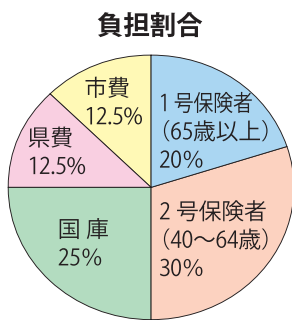
介護保険制度はなぜ創られたか

「老い」とは、個人差が大きくひと口に言えるものではありませんが、「誰もが老いる」という事実から目を背けるわけにはいきません。早い人では50代から65歳を過ぎるとほとんどの人が、老いと向き合うことになりま

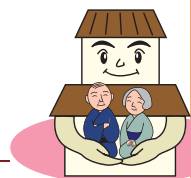
す。団塊の世代といわれる戦後生まれの人たちがこの65歳を迎えます。超高齢社会という言葉が聞かれたことがあります。まさに今、これからの高齢者の占める割合が多い逆三角形の人口構造の社会です。

そしてその超高齢社会の介護を家族だけでなく社会全体で支える「介護の社会化」をすすめるための制度として創設されました。また、介護を職業とする働く場の創設としての役割もありました。

介護サービス利用者は、費用の10%を負担し、介護保険から90%が支払われ、



保険料を上げないためには、元気で長生きする人が増えなければなりません。そうした意識を生みだすためのしくみともいえますが、しくみを知る機会が少なく支払う金額だけに関心が



第2回 東日本大震災復興支援ボランティア活動報告

8月1日～8月5日

宮城県気仙沼市大島地区へ20名で参加

活動するにあたり、被災者の気持ちに寄り添った活動を心がけ、ケガも無く無事帰着することができました。新たな出会いがあり、被災者からは厚いお礼の言葉をいただき、参加した人たちからは、「またボランティアに参加したい」との意見が多くありました。



■参加いただいたか
たの感想（抜粋）
来年社会人になりますが、この経験を生かして仕事と社会貢献に精一杯努めていきたいです。



福島^{がいのち}の雑貨店 乙女浜町で再開

東日本大震災で被災された紺野さんが、福島県南相馬市から能登川地区に転居され、被災前より経営されていた雑貨店「仮庵」を、8月25日、乙女浜町に再開されました。能登川まち協も被災者支援活動の一環として支援しています。

また、朝日放送、NHKなど数社の報道機関の取材がありました。



■ボランティア活動支援協力金の募集

東日本大震災復興支援活動への支援活動を推進していくにあたり、支援協力金を募集しております。ご協力をよろしくお願いいたします。詳しくは能登川まち協ホームページをご覧ください。

事務所の移転のお知らせ

7月15日(金)、能登川まち協の事務所が能登川支所内に移転しました。

■事務局構成員の変更

新しい構成員です。よろしくお願いします。

新しい体制		記 事
事務局長	大 橋 正 司	7.1 就任
事 務 員	今井陸之助	6.30 事務局長退任
事 務 員	染 谷 克 己	
事 務 員	原 田 明 人	7.15 新規事務員
事 務 員	川南菜穂美	

指定管理者契約に関する まち協臨時総会の開催

■日時：平成23年10月2日(日) 15:00～16:30

■場所：能登川コミュニティセンター ホール



どうなる 能登川病院



合併以前から私達のまちの病院として親しまれてきた能登川病院を、今後どのようにするかを検討する「東近江市立病院整備検討委員会」が8月25日市役所にて開催されました。蒲生病院は、平成25年度より姿を変え、家庭医を育てながら、在宅診療も行う地域包括医療を、滋賀医科大学と滋賀県の支援を受けて病床0～19床の診療所を開設する方向が示されました。

一方、能登川病院は、平成22年6月の東近江市病院等整備計画で示された現在の病床数120を60床に減らして存続する案のままで提示されました。

現在、竹内孝幸院長を中心に最大限の努力を払っていただいておりますが、常勤医師の不足は深刻で、非常勤に……

ある日突然、まちから病院が消えないよう……

医師の応援を得ながら診療科数はなんとか確保されていますが、苦しい経営が続いております。

東近江市の中核病院としての滋賀病院は常勤医師も10名以上増加し順調に発展しておりますが、能登川病院に医師が派遣できるのは早くても平成27年度以降とのことから、当年度を含め平成27年度頃までの数年間をどう維持していくかが当面の大きな課題となっております。

能登川地区の市民は、改めて能登川病院を自分達の病院として大切に、今後も発展維持できるよう一人一人が考え、行動をしていくことが必要に思われます。

能登川地区まちづくり協議会

会長 藤居 正 博